

2022 年度春季シンポジウム「持続可能な社会の実現に向けて」 ～脱炭素社会に向けた廃棄物処理の将来像～ オンライン配信のご案内(企画書)

廃棄物処理は生活環境の保全・公衆衛生の向上を目的に、市民の負担を少なくし、自治体の限られた財政負担の中で適正処理を進めてきた。その結果可燃性廃棄物の近代的焼却処理は、安全な処理方法であり、埋立処分量の減容化効果もあり、エネルギー回収して売電収入を得ることも出来るので、21 世紀の循環型社会の実現への切り札として日本をはじめ欧米、中国、韓国などにひろく定着してきた。しかし最近、脱炭素社会へと舵が切られてから、廃プラの分別回収・再生利用を推進して、廃プラの焼却・最終処分を大幅に削減することが求められている。もしそうなると焼却対象の廃棄物の量も少なくなり、しかも可燃性廃棄物のカロリー低下から、エネルギー回収も難しくなる。それどころか燃焼のために化石燃料を助燃剤として使用する必要が出てくることも考えられる。そこで今回のシンポジウムでは「脱炭素社会に向けた廃棄物処理の将来像」を考える場を提供したい。

【新型コロナ対応について】 昨今の新型コロナウイルス感染症流行の状況を考慮して、オンライン配信いたします。

1. 開催日時：2022 (令和 4) 年 6 月 30 日 (木) 14:00～17:00
※6 月 30 日開催当日の視聴が出来ない方は、オン・デマンドサービスにて 7 月 1 日以降 7 月末まで何時でも何回でも視聴可能です。
2. 開催方法：無観客開催、オンライン中継配信
※参加には事前登録が必要です。参加者は視聴と資料のダウンロードが出来ます。
3. 定員：300 名 (配信拠点数制限で、定員になり次第締め切りさせていただきます。)
4. 事前登録申込締切：6 月 24 日(金)
5. 主催：(株)廃棄物工学研究所
6. 後援：環境省
7. 協賛：(公財)廃棄物・3R 研究財団、(公財)産業廃棄物処理事業振興財団、(一社)環境衛生施設維持管理業協会
8. 協力：(一社)日本ガス協会、(一財)日本環境衛生センター、(公社)全国産業資源循環連合会、(公財)日本産業廃棄物処理振興センター、(一社)プラスチック循環利用協会、(一社)日本環境衛生施設工業会、(一社)廃棄物資源循環学会、(公社)全国都市清掃会議、(一社)日本産業機械工業会、(一社)持続可能社会推進コンサルタント協会、(一社)廃棄物処理施設技術管理協会、ごみ焼却余熱有効利用促進市町村等連絡協議会、有害・医療廃棄物研究会、産業廃棄物処理業経営塾 OB 会、フォーラム環境塾・NPO 法人都市環境フォーラム
9. 事前登録費：上記協賛協力団体の会員：5,000 円、非会員：10,000 円、自治体職員：4,000 円、学生：2,000 円
10. プログラム (予告なくプログラムの講演内容、講演者の追加、変更の可能性があります。)

時間	講演内容	講演者
14:00～14:15 15分	オープニング・スピーチ 企画の背景：脱炭素化と適正処理	(株)廃棄物工学研究所代表 田中 勝
14:15～14:55 40分	基調講演 脱炭素社会の実現への廃棄物分野の重点施策	環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課・課長 筒井 誠二氏
14:55～15:35 40分	地方行政解説 名古屋市のごみ焼却施設における資源循環と埋立量削減の取組み	名古屋市 環境局 施設部 主幹(鳴海・北名古屋工場運営調整担当) 大岩 和成氏
15:35～15:45	休憩	
15:45～16:25 40分	特別講演：廃棄物分野における温室効果ガス排出量の算定方法とその課題	パシフィックコンサルタンツ株式会社 社会イノベーション事業本部 グリーン社会戦略部 環境・エネルギー政策室長 井伊 亮太氏
16:25～16:55 30分	緊急調査：1. 自治体の容り法による分別回収の活用 2. 脱炭素技術の活用とその選択 3. 海外の脱炭素への取組	(株)廃棄物工学研究所 吉澤、河上、田中
16:55～17:00	クロージング・リマーク	(株)廃棄物工学研究所代表 田中 勝

事前登録のお申し込みは、申込用紙にご記入の上、メール添付にて
運営事務局[info@riswme.co.jp]まで送りください。

お問合せ先：運営事務局 (株)廃棄物工学研究所 (担当：石井) Tel/Fax 086-239-5303

※事前登録の申込用紙は、(株)廃棄物工学研究所ホームページ(<http://www.riswme.co.jp>)からダウンロードいただけます。